松本市文化財調査報告No.129

長野県松本市

松本城下町跡

ISEMACHI
伊勢町 第8・9・12次

HONMACHI
本町 第1・2次

—平成8年度試掘調査報告書—

1997.3

松本市教育委員会

例　言

1．本書は平成８年度に実施した松本城下町跡伊勢町および本町の埋蔵文化財試掘調査報告書である。
2．本調査は中央西土地区画整理事業地内の個人店舗建設に伴う緊急発掘調査で、国庫補助事業として実施したものである。
3．本調査および本書の作成は、(財) 松本市教育文化振興財団へ委託し、考古博物館が実施した。
4．平成８年度には５件（伊勢町第８・９・12次、本町第１・２次）の調査を実施した。このうち、本文では本町第１次調査を報告する。
5．調査は、今村　克、竹原　学、長畝和正（伊勢町８次）、竹内靖長、荒木　龍（伊勢町９次・本町１・２次）、神田訓安、高桑俊雄、村田昇司（伊勢町12次）が担当した。
6．本書の執筆・編集は、竹内靖長が行った。
7．本書の写真撮影は、現場を調査担当者、遺物を宮嶋洋一が担当した。
8．遺構番号は、各検出面毎に１から付している。
9．出土遺物・図面・写真類は、松本市教育委員会が所有し、松本市立考古博物館（〒390 長野県松本市大字中山3738-1　TEL 0263-86-4710）が保管している。

調査体制

調査団長　守屋立秋（松本市教育長）

調査担当者　神田訓安、竹原　学、竹内靖長、高桑俊雄、今村　克、長畝和正、村田昇司、荒木　龍

調　査　員　松尾明恵

協　力　者　青木雅志、荒井留美子、飯出三男、石井修二、入山正男、大角けさ子、上条尚美、上条道代、河野清司、輿　喜義、小林　隆、小松正子、斉藤政雄、坂口ふみ代、鷲見昇司、竹平悦子、中村恵子、中村慎吾、布野行雄、布山　洋、丸山恵子、道浦久美子、三宅康司、村山牧枝、百瀬二三子、百瀬義友、山崎照友、吉田　勝、米山禎興

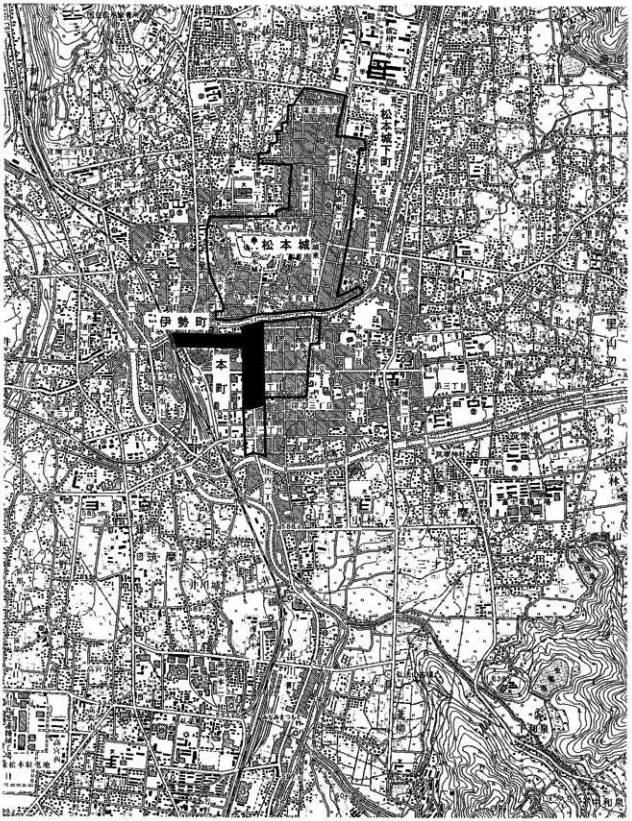
事　務　局

松本市教育委員会：岩渕世紀(文化課長)、熊谷康治（文化財係長）、田多井用章（事務員）

(財) 松本市教育文化振興財団

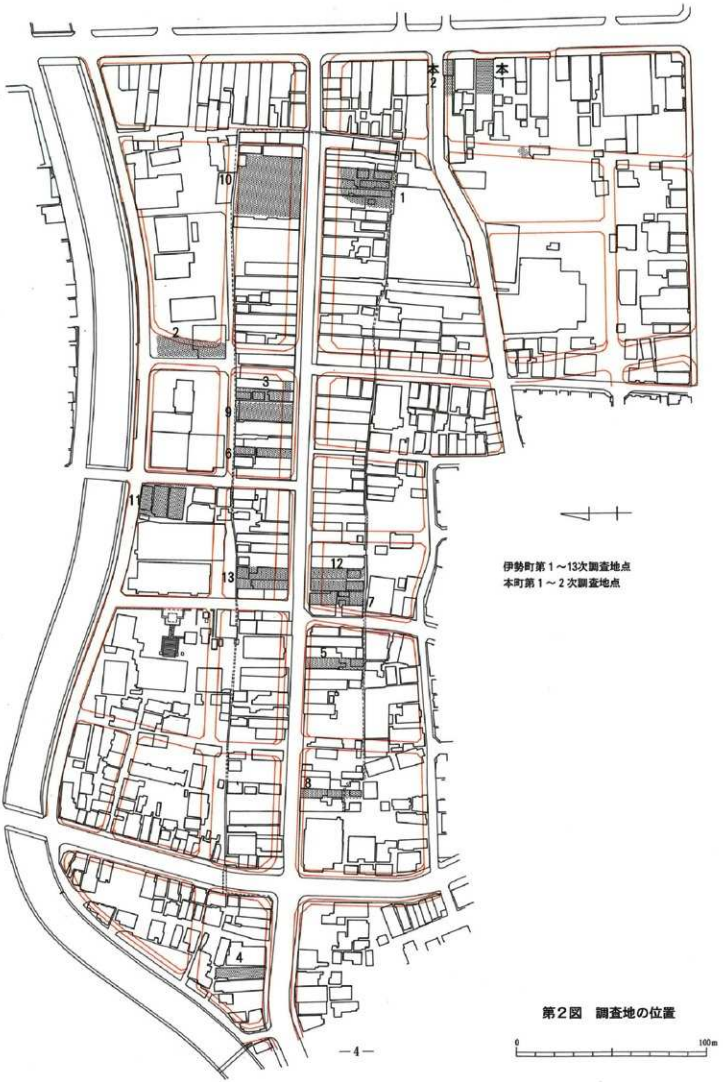
事　務　局：大池　光（事務局長）、手塚英男（局次長）、川窪　茂（次長補佐）

考古博物館：村田正幸（館長）、松澤憲一（主査～H 8. 9）、近藤　潔（主事）、川上真澄



黒塗り部分が伊勢町・本町の範囲

第1図　遺跡の位置



第２図　調査地の位置

1．平成８年度伊勢町・本町の発掘調査概要

平成８年度は、松本市中央西上地区画整理事業に伴い８件の発掘調査を実施した（第１・２表参照）。このうち５件は（伊勢町第８・９・12次、本町１・２次）区画整理事業地内の個人店舗建設に伴う緊急調査で、国庫補助事業として実施した。これらの調査箇所は、松本城下町跡の町人地である伊勢町と本町にあたる。各調査地点の概略は、以下のとおりである。

本町１次調査：本町における初の調査である。16世紀後半～18世紀初頭までの10層の整地層および９面の生活面を検出した。これらの整地層は、現地表面下3.2mもの深さに及ぶ。

本町２次調査：18世紀後半～19世紀の５つの生活面を検出した。文献や伝承などから塩問屋のあった地点と推定されていた。このことは、出土品の中に播磨産の焼塩壺がみられたことなどから、あらためて実証された。調査区西端のトレンチ壁面の観察から、16世紀後半～19世紀に至る13層の土層を確認している。

伊勢町８次調査：17世紀前半から19世紀前半にかけての４つの生活面を検出した。第２面では、石組みの鍛冶炉を検出した。

伊勢町９次調査：16世紀後半から18世紀の生活面を検出した。16世紀末の初期の町割りが確認できた。

伊勢町12次調査：17世紀後半から19世紀にかけての４つの生活面を確認した。町屋のほぼ１軒分の範囲を調査した。鍛冶炉が検出されたため、鍛冶職人が住んでいたものと考えられる。出土品には、幕末期の一分銀の十製模造品（泥面子の可能性もある）などがある。

平成８年度に実施された発掘調査は、下記の一覧表に記し、調査位置は第２図にまとめた。

第１表　松本城下町跡伊勢町地点調査一覧

調査次数	所在地	原因事業	調査期間	調査面積
8	松本市中央1丁目8-8	区画整理個人店舗建設	H8. 5/22～H8.5/31	10.2㎡（×４面）
9	松本市中央2丁目3-40	区画整理個人店舗建設	H8. 5/22～H8.5/31	61.5㎡（×４面）
10	松本市中央2丁目3-33	市営駐車場建設	H8.11/21～H9.3/13	170㎡（×９面）
11	松本市中央1丁目9-22ほか	市街地再開発ビル建設	H8.12/13～H9.1/9	153㎡（×４面）
12	松本市中央1丁目7 6	区画整理個人店舗	H9. 1/10～H9.2/1	125㎡（×４面）
13	松本市中央1丁目9-31	市街地再開発ビル建設	H9. 2/7 ～H9.3/18	90㎡（×５面）

第２表　松本城下町跡本町地点調査一覧

調査次数	所在地	原因事業	調査期間	調査面積
1	松本市中央2丁目1-21	区画整理個人店舗建設	H8. 8/5～H8. 8/29	25.2㎡（×７面）
2	松本市中央2丁目1-20ほか	区画整理個人店舗建設	H8.11/1～H8.11/14	32.5㎡（×５面）

2．本町　第１次調査の概要

（1）はじめに

本調査は、松本市中央２丁目１―21において中央西土地区画整理事業に伴って実施した発掘調査である。調査地は、松本城下町跡本町の町屋跡にあたる。調査面積は25.2㎡×７面、調査期間は平成８年８月５日から同年８月29日までである。

近世都市・松本は、江戸時代中期頃には人口およそ１万５千人前後を有する信濃第１の都市として栄えた。その繁栄の様子は、江戸後期の天保14年に書かれた『善光寺道名所図絵』に次のように表現されている。

「•••城下の町広く、大通り十二街、町数およそ四十八丁、商家軒をならべ、当国第一の都会にて、信府と称す、相伝ふ牛馬の荷物一日千駄附き入りて、また千駄送るとぞ、実に繁盛の地なり•••」

このような商業活動を行っていた商家の大半が本町にあり、その大部分が、問屋と酒造であった。享保10年に成立した『信府統記』には、「天正十三年より今の宿城の地割りをして、同十五年までに市辻・泥町あたりの町屋のこらず本町へ引移し、•••」とあり、松本城天守閣築城以前の深志城時代に小笠原貞慶により本町の町割りがおこなわれたものと考えられる。

（2）発掘調査の結果

① 層序

調査地における基本土層は、11層確認された。これらは、最下層の第XI層が自然堆積土である以外は、すべて人為的な整地である。第Ⅰ層は現地表下100㎝までの厚い層で、近年解体されたビルの攪乱層である。第Ⅱ・Ⅲ層も攪乱を受けて部分的にしか残存していないため、面的調査は第Ⅳ層から行った。第Ⅳ層は焼土層で、火災後の整地層である。出土遺物の時期および文献史料から元禄九年（1696）の火災層と考えられる。第Ⅴ層は整地層のみで、遺構は確認されなかった。第Ⅵ層～Ⅹ層は、各層の上面を検出面として遺構面が確認されている（第２～６検出面）。第XI層は自然堆積層であるが、遺構が検出されている。本格的な町割りが行われる以前の段階の遺構と考えられる。

② 検出された遺構

第１検出面の遺構（17世紀末）：調査区中央部に建物基礎と考えられる布掘り礎石の間知石が２列確認された。これらは切り合い関係にあり、南側の建1が古段階、北側の建２が新段階である。いずれも東西それぞれの調査区域外へ延びる。建1の間知石は、北側に面を取っているが、建2は逆に南側に面を取っている。これは、建物の南縁と北縁にあたるものと考えられ、建１と建２の間が屋敷の境界になるものと考えられる。建１の間知石には被熱痕が明瞭に確認でき、焼土層中に位置することから火災で焼失した家屋の基礎と推定される。建２は、その焼土層上面に位置していることから、被災後に新たに建てられた建物と考えられる。この火災は、出土遺物の所見と文献の火災記録の照合から、元禄九年（1696）11月のものと考えられる。このときの火災は、本町二丁目から出火し、本町一丁目まで全焼した大きな火災であった。

第２検出面の遺構（17世紀後半）：調査区中央部分に建物址１、ピット１が確認されている。建物址は礎石建物で、１検の間知石の建物とは構造的に異なる。礎石列は東西方向に延びており、１検の建１と同位置である。基礎構造は、やや浅い掘り方に石が据えられており、グリ石などはみられない。調査区北西部分からは、ムシロが出土した。

第３検出面の遺構（17世紀中頃～後半）：建物址１・土坑３・ピット２が検出された。建1は礎石構造で、掘り方は浅く、基本的にグリ石は入れられていない。本址も１・２検の建物位置と一致する。

第４検出面の遺構（17世紀前半～中頃）：発見された遺構は、建物址１・土坑３・炉址１である。建物址は礎石構造で、深さ25～30㎝の掘り方にグリ石が充填され、基礎を強固にしている。また礎石は、長径50㎝

の比較的大きなものの上部に、長径40cmのやや小型の礎石を載せる２段構造になっている。建物位置は３検のものと一致する。

第５検出面の遺構（17世紀前半）：掘立柱建物址１、土坑３、ピット３、溝状遺構2が検出された。建物址は、掘り方底面に平坦な石を据え、拳大の礫を充填して柱を固定していたものと考えられる。ピットの位置は、１～４面の建物址の位置とは異なる。

第６検出面の遺構（16世紀末）：掘立柱建物址１（柱穴４）、土坑１、ピット８が検出された。建物址のＰ２には、柱材がそのまま遺存していた。建物址のピット覆土中には拳大の小礫が混入しているが、これらは柱を固定するためのグリ石と考えられる。

第７検出面の遺構（16世紀後半）：掘立柱建物址が1棟検出された。柱穴は４基で、掘り方は浅い。建物位置や主軸が上面のものとは異なる。第7検は自然地形上に建物を構築しており、城下町の地割りがなされる以前の段階の遺構の可能性がある。

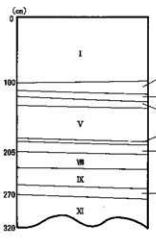
（３）出土遺物

出土遺物は、土器（かわらけ、内耳鍋）・陶磁器（肥前産陶磁器、瀬戸・美濃産陶器、関西系・・・京焼など）・木製品（下駄、箸、漆椀など）、金属製品（キセル、銭貨）、石製品（石臼）などがみられる。これらは、巻末の写真のみの概要報告とした。

（４）まとめ

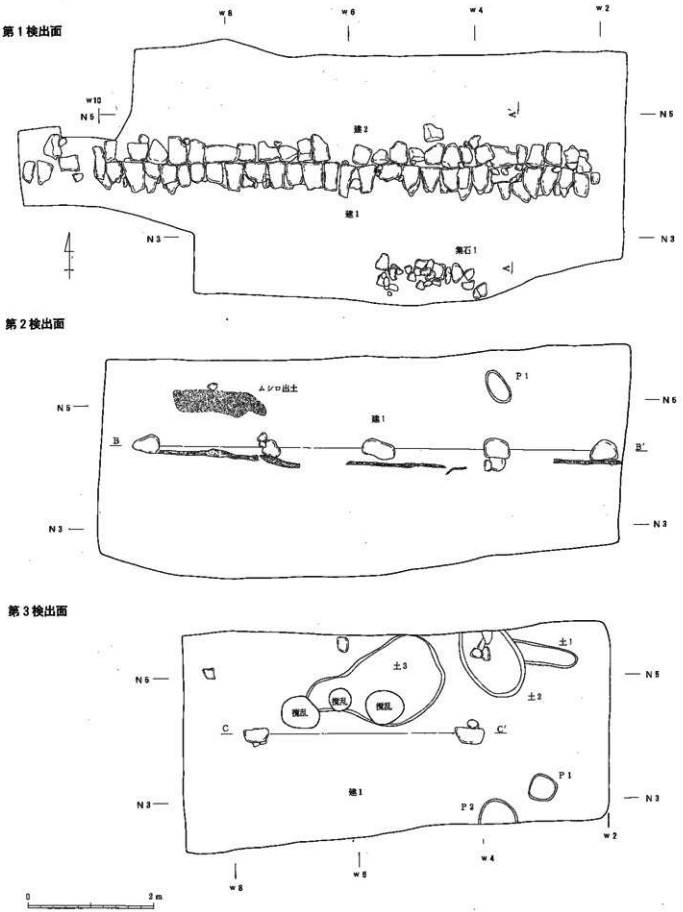
今回の調査では面積的には狭いものの、建物址や城下町の地割りの変遷を解明する上では非常に貴重な事例となった。まず、建物址の基礎工法に着目してみると、７～５検が掘立柱建物、４～２検が礎石建物、１検が布掘り礎石工法（間知石）と、時期により基礎工法も変化していることがわかる。出土遺物等から時期を比定してみると、16世紀後半～17世紀前半（７～５検）が掘立柱建物期、17世紀前半～後半（４～２検）が礎石建物期、17世紀末以降が布掘り礎石工法へと変遷していく。この傾向は、城下町跡伊勢町、三の丸跡土居尻でもほぼ同様な傾向がみられる。

次に、町割りの変遷を推考してみたい。建物址の主軸方向、礎石列の位置から３つの段階が設定できる。まず、最古段階の７検（16世紀後半）は、１～６検の建物址と主軸方向、位置が異なる。１～６検では、建物の主軸方向は同一であるが、屋敷境の位置が５～６検（16世紀末～17世紀前半）、１～４検（17世紀前半～末）では、異なる。城下町がつくられた16世紀末の段階のものが、17世紀に改修され、それが踏襲されていることが考えられる。



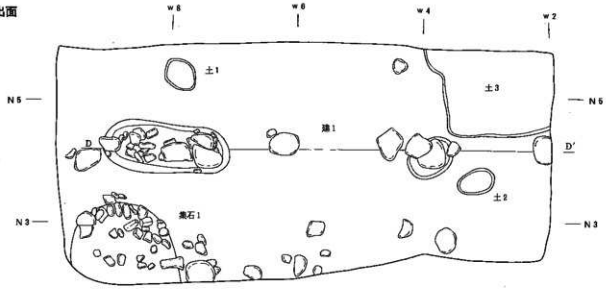
Ⅰ：近代・現代の整地層（朝日生命ビル解体時の埋土）
Ⅱ：焼土層（安永五年火災時の整地層）
Ⅲ：黄褐色砂礫土（整地層）
Ⅳ：焼土層（元禄三年火災時の整地層・第１検出面）
Ⅴ：暗黄褐色砂礫土（整地層）
Ⅵ：灰色粘質土（炭化物多量混入・第２検出面）
Ⅶ：灰褐色土（木片・砂粒・小礫少量混入・第３検出面）
Ⅷ：暗灰褐色土（木片・炭化物微量混入・第４検出面）
Ⅸ：暗灰褐色土（木片・礫少量混入・第５検出面）
Ⅹ：黒褐色粘質土（第６検出面）
Ⅺ：明灰色砂質土（第７検出面）

第３図　本町１次基本土層

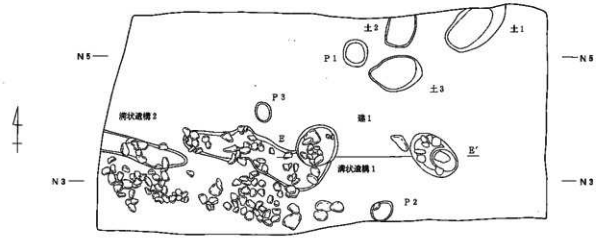


第４図　本町１次の遺構（１）

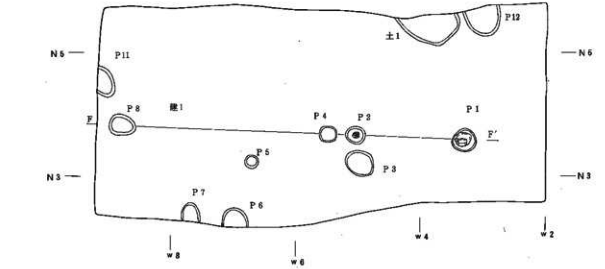
第４検出面



第５検出面



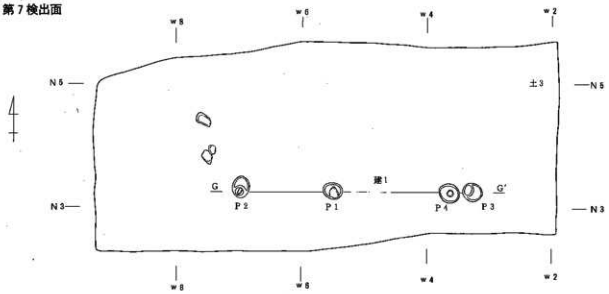
第６検出面

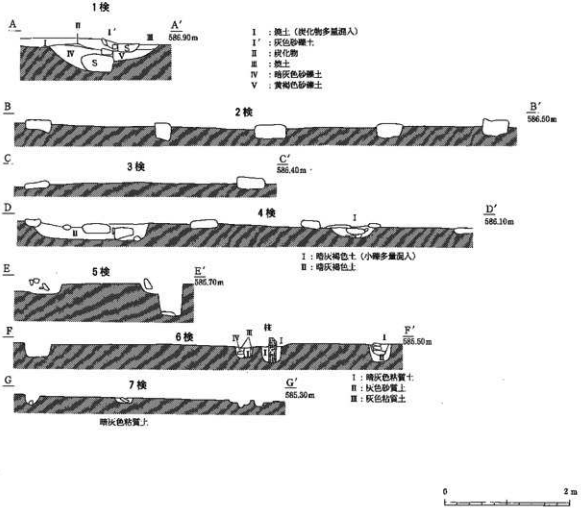


0　2m

第５図　本町１次の遺構（２）

第７検出面



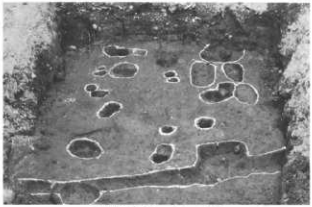


第６図　本町１次の遺構（３）

伊勢町第8次・1検　全景

伊勢町第8次・2検　鍛冶炉

伊勢町第9次・1検　建物址1



伊勢町第9次・4検　全景

伊勢町第12次・1検　建物址1

伊勢町第12次・4検　土坑8（出土状況）

本町第2次・2検　全景

本町第2次・2検

図版1　伊勢町第8・9・12次、本町第2次調査（遺構）

1検　全景

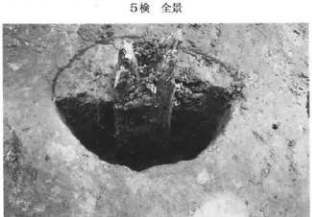
2検　全景

3検　全景

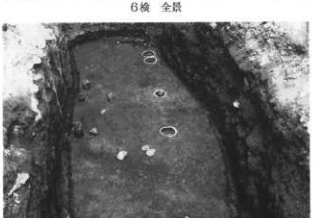
4検　全景

5検　全景

6検　全景



6検　P2（柱材が残存していた）



7検　全景

図版2　本町第2次調査（遺構）

鉄釉双耳壺（産地不明）

染付瓶（肥前産）

香炉（瀬戸・美濃産、底面に墨書あり）

神酒徳利（肥前産）

黄瀬戸皿（瀬戸・美濃産）

天目茶碗（瀬戸・美濃産）

染付碗（肥前産）

図版３　本町第１次調査（遺物）

灰釉丸皿（瀬戸・美濃）

鉄釉水滴（瀬戸・美濃）

灰釉小碗（瀬戸・美濃産、鉄漿坏として使用された）

鉄釉台付たんころ（瀬戸・美濃産）

拳骨茶碗（瀬戸・美濃産・本町2次）

鎧手湯呑碗（瀬戸・美濃産・本町2次）

灰釉鉢（瀬戸・美濃産・本町2次）

土師質焼塩壷「播磨大極上」（本町2次）

図版4　本町第1・2次調査（遺物）

松本城下町跡　伊勢町第8・9・12次　本町1・2次　試掘調査報告書抄録

ふりがな	まつもとじょうかまちあといせまち ほんまち
書名	松本城下町跡 伊勢町第8・9・12次　木町1・2次　試掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	No.129
編著者名	竹内靖長
編集機関	長野県松本市教育委員会　（松本市立考古博物館）
所在地	〒390 長野県松本市丸の内3番7号　（松本市大字中山3738-1　TEL 0263-86-4710）
発行年月日	平成9年（1997）年3月31日　（平成8年度）

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
まつもとじょうかまち 松本城下町	ながのけんまつもとし 長野県松本市	20202	50	36° 13′ 42″	137° 58′ 7″	960522～ 970201	（合計） 258.4㎡ （×複数面）	中央西 区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松本城下町跡 伊勢町 8・9・12次 本町 1・2次	城下町	中世 ～ 近世	建物址　22 土坑　108 ピット　104 鍛冶炉　3 埋設甕　5 埋設桶　2 溝　2 ※数字は5地点合計	陶磁器：瀬戸・美濃産、肥前産、京都産 金属製品：銭貨、煙管、鉄、鉄鉱滓ほか 木製品：下駄、曲物、漆椀、箸、荷札ほか 石製品：砥石、石臼ほか 土製品：鞴羽口、泥面子、人形ほか	中世～近世にわたる松本城下町の町屋跡の調査。複数の整地層中に、遺構・遺物が良好な状態で遺存していた。

松本城下町跡

伊勢町第8・9・12次　本町第1・2次

―平成8年度試掘調査報告書―

発行日　平成9年3月31日

発行者　松本市教育委員会
長野県松本市丸の内3番7号

印刷　（株）プラルト